

令和7年2月25日

第10回 性的指向・ジェンダーアイデンティティ理解増進連絡会議資料

中野区立中野中学校長
竹之内 勝

学校教育における、性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する
理解増進への取組

- 1 学校経営において目指す学校像、学校におけるユニバーサルデザインの考え方
 - 生徒一人ひとりが、誰一人取り残されず、排除・放置されず、様々な学校生活の場面で感動を味わうことができる学校づくりを目指している。

- 2 人権教育などにおける取組事例や、取組にあたっての課題や工夫
 - (1) 教育内容の学校全体での共通理解
 - 相談等がなくとも、安心して安全な生活環境づくりを目指し、生徒の意見を取り入れた「学校の決まり」づくりに取り組んでいる。
 - ア 授業
全教科、分野・領域等、男女共習で実施している。
 - イ 服装
「標準服」や「標準体育着・水着」と称し、性別に関係なく衣類着用を選択できるようにしている。
「標準服」では「スタンドカラータイプ」「セーラータイプ」「スラックス」「スカート」等と表記・表現し、「標準体育着・水着」ではユニセックスタイプのものを斡旋している。
水泳授業時には、ラッシュガードの着用を認めている。
 - ウ 髪型
長短の決まりを撤廃、色やカットについても心境や環境の変化等に配慮した声掛けにより、保護者と連携して見守っている。
 - エ 更衣
保健室、多目的トイレ等の使用を認めている。1階の多目的トイレは常時使用できるようにしておく。
 - オ トイレ
来賓用、多目的トイレ等の使用を認めている。1階の多目的トイレは常時使用できるようにしておく。
 - カ 呼称
当初は「〇〇さん」で呼び、随時生徒が希望する呼称にしている。
 - キ 部活動
男女別募集を撤廃している。大会参加について、性別による競技を明示している。

ク 宿泊行事

1人部屋等の使用を認めている。入浴時間をずらしたり、別浴場を用意したりし、選べる場合には生徒による選択としている。

ケ 学籍番号

男女混合五十音順としている。

コ 集合

入学式からスタートする儀式的行事、全校朝礼等の各集会など、男女混合五十音順での並び順としている。

サ その他

教職員個人による判断をせず、報告・連絡・相談を原則とし、生徒本人の思いや保護者の願いを尊重し了解を得ながら対応している。

(2) 保護者の理解

入学前学校説明会、入学式(校長式辞)、保護者会、学校・学年便り、ホームページ、PTA 会合等において、啓発している。

(3) 集団指導と個別指導との内容の区別

集団へは「みんな違ってみんないい」ことを啓発するとともに、その配慮について具体的に説明している。

個別には、生徒本人の思いや保護者の願いを尊重しながら対応している。

(4) 教育の中立性の確保

特定の主義主張に偏ることのないように授業計画等を組んでいる。

行事においても、運動会での「全ての生徒が楽しめる」競技を投票で決めたり、生徒会活動に「誰もが役割をもって参加できる工夫」を凝らしたりし、生徒主体で考えさせ、アンケートを取るなど、中立性を意識した指導に取り組んでいる。

3 保護者や地域住民などとの連携の工夫

中野区コミュニティスクールとしての「地域学校運営協議会」を柱とし、本校の取組を開くことで連携を深めている。

4 生徒指導提要や文部科学省の通知等を踏まえた、学校現場におけるきめ細かな対応

○ 性的マイノリティの生徒への配慮と他の生徒への配慮との均衡等

「平等」と「公平」の違いについて理解を促しているほか、生徒指導提要や文部科学省の通知等を活用した教職員研修とともに、「学校経営方針」や「学校の決まり」、「いじめ防止」などを、ホームページ等を活用して明示したり、学校図書館に「人権コーナー」を設置したりし、生徒・保護者・地域の方々への理解・啓発に取り組んでいる。また、年3回のいじめアンケートや大型連休や長期休業明けのスクールカウンセラーによるアンケートを年4回実施(年間計7回)し、生徒や保護者の声を聴く機会を設けている。

5 教職員に対する研修等の取組とその工夫

(1) 年度当初に校内研修として、「学校におけるユニバーサルデザイン」と題した校長からの指導・助言を実施している。

- (2) 校内研修において、各回のテーマにおける人権への配慮について思考させる場面を設定している。
- (3) 日々の OJT における各課題に関して、人権への配慮について思考させる場面を設定している。

6 取組にあたっての困難、その困難に対する解決策

(1) 困難

「生徒指導提要」や「子どもの権利条例」への理解は進んだものの、実現に向けた具体的取組への提案が難しい。

(2) 解決策

「生徒主体の取組とするための提案」に視点を絞り、生徒アンケート等の結果を根拠にした具体的取組を、生徒の意見を取り入れて提案させている。生徒の意見を取り入れる際には、様々な生徒への配慮を想像させるよう指導している。

7 取組を通じた生徒の成長、学校生活における意欲や態度の変化

○ 令和6年度 学校評価における生徒アンケート

- (1) 自分には良いところがある 82.9%
- (2) 学校生活が充実している 90.6%
- (3) 思いやりの心をもって生活を送っている 91.9%
- (4) 学校生活のルールを守って生活を送っている 95.0%
- (5) 中野中では、困っていることに対応されている 85.1%
- (6) 中野中では、よくない態度や言動について指導されている 90.6%
- (7) 中野中では、いじめなどない学校・学級づくりに取り組まれている ... 87.6%
- (8) 中野中では、生徒会活動や委員会活動が充実している 97.2%
- (9) 中野中では、学校行事が充実している 94.7%
- (10) 中野中では、部活動が充実している 90.9%
- (11) 自分の学力は向上している 82.3%

8 関係する教育委員会での取組

(1) 東京都教育委員会

- ア 「人権教育プログラム(学校教育編)」を毎年度編集・発行している。
- イ 毎年度、人権尊重教育推進校を指定し、2年間の研究成果を発表している。
- ウ 東京都中学校長会の人権委員会と連携し、研修を進めている。
- エ その他、人権教育の推進事業実現に向けて、様々な取り組んでいる。

(2) 中野区教育委員会

- ア 各幼稚園、小・中学校の園長・校長をはじめとする教員による「人権教育推進委員会」を設置し、中野区独自の「人権教育推進資料」を毎年度作成するとともに、事例授業を公開している。
- イ 毎年度、校種別に、「東京都教育委員会 人権尊重教育推進校」を受け、2年間の研究成果を発表している。

- ウ 各校の校務分掌に「人権教育担当教諭」を位置付け、主催研修を実施するとともに、各校における還元研修を指導している。
- エ その他、人権教育の推進事業実現に向けて、様々取り組んでいる。